

『金属アレルギーをまなぶ』 監修者にインタビュー

「日本人の10人に1人が金属アレルギーといわれる」と東京歯科大学教授の佐藤亨氏は『金属アレルギーをまなぶ』メタルフリー治療へのファーストステップ』永末書店発行の推薦文の中で書いています。厚労省の患者調査によると、1歯科診療所当たりの平均患者数は平成26年で19.9人。歯科用金属を使用する歯科治療において、この数字は無視できない。本書監修の愛知学院大学歯学部客員教授の服部正巳氏に、本書の意義や金属アレルギー患者への歯科治療での処置法などについて聞いた。



愛知学院大学歯学部客員教授
服部 正巳氏

日本人の10人に1人が金属アレルギーといわれているのも確かです。そこで、金属アレルギーとは何か、患者さんにとってどのような治療をすれば良いかを分かりやすくまとめたのが本書です。これまで金属アレルギーに取り組んできた歯科医師よりも、これから行おうとする歯科医師のためのファーストステップと捉えていただければと思っております。

患者さんが金属アレルギーであるか否かは表面的に分かるのではありません。金属アレルギーが関係する皮膚疾患として接触皮膚炎や接触口唇炎などがありますが、全身的な慢性疾患が原因の場合もあるので、精査が必要となります。そのために問診票を使って、過去に金属によるかぶれがあったかなどを調べます。

愛知学院大学歯学部附属病院で使っている「口腔金属アレルギー外来問診票は、皮膚科医に見てもらい、「これだけ網羅していれば大丈夫」との確認をもらっています。本書にも参考例として掲載しています。

1人が該当 な治療を紹介

その問診票で患者さんを調べると、患者さんがピアスやネックレスでかぶれると話してくればパッチテストを行いますし、歯科治療で口腔内に金属を入れる前に「金属アレルギーはありますか」と聞く歯科医師が増えてきています。患者さんには分からないと答えられた時は金属アレルギーを疑い、詳細な問診を行うようになります。それで疑いがあった場合は、

パッチテストは歯科医院ではできないのですか。
服部 以前は愛知学院大学歯学部附属病院でもやっていたのですが、厚労省からの指導もあつて、保険治療でのパッチテストは皮膚科医によるものとなりました。自費で検査している歯科医師もいますが、保険で治そうとする歯科の診療提供書と金属アレルギーという診断名が必要になります。

金属アレルギーの患者さんは、全ての金属が使用できなくなるのでしょうか。
服部 金属アレルギーは、特定の人が特定の金属イオンの溶出によって起こすものです。パッチテストはその人にとつてのアレルギー源となる金属元素を見つけ出すものです。原因が分かればその金属元素の接触を避けられれば、全部セラミックにしなればいけません。ということではありません。

患者さんは増えているのですか。
服部 疫学調査では、全く症状がなくても感作されている人が1割以上いるとの結果が出ています。現在でもその状況はあまり変わっていないのではないのでしょうか。

「接触皮膚炎症候群」
「全身性接触皮膚炎」があり、この分野は皮膚科医と切っても切れない関係にあります。

男女でどちらが多いというのがあるのですか。
服部 アクセサリー類をつける機会が多いため女性の患者の方が多いですね。特にピアスは、穴を開けて、傷をつけたところに金属を通すので、溶出した金属イオンで感作されてくるのです。日本でピアスが流行った時に患者が増えたと言われました。

金属分析をし、歯科治療時の金属アレルギーの感作を防げれば金属アレルギーはなくなるのですか。
服部 体の中に抗体が作られるので、完治はできません。治療法はその金属を避けるという最も安易な方法しかないのです。特に口の中は過酷な条件下にあり、銀歯を入れると、4年で変色する場合があります。これは金属の腐食、金属イオンの溶出です。歯科医師は金属アレルギーという病気を理解しなければなりません。

そこで皮膚科との連携強化のためのモデルケースとして藤田保健衛生大学



『金属アレルギーをまなぶ』メタルフリー治療へのファーストステップ』
服部正巳 編集/池戸泉美・風間龍之輔・杉浦一充・竹市卓郎・鶴田京子・本間憲章/松村光明・渡邊憲 著/B5判/112ページ/5,500円(税別)/永末書店

日本人の10人に メカニズムと必要

パッチテストが歯科医院でできるようにになれば歯科医師にとつても治療を進める上で好都合のように思うのですが、できないのは簡単でないからですか。

歯科医院でできないわけではないのですが、感作陽性であるのかを判断するには訓練が必要です。過去に問題となったことですが、ある歯科医師がパッチテストをして、ほとんどの患者さんが金属アレルギーであるとの結果を出し、口腔内の金属を撤去して、自費でノンメタルの治療をしたことがありました。

また金属は私たちの生活に欠かせないもので、装飾品だけでもネックレスをはじめイヤリング、ピアス、指輪、ブレスレット、時計などさまざまあり、さらに医療用金属、医薬品、ステンレス製品、硬貨なども多岐にわたっています。さらに金属元素を多く含む食品もあります。金属アレルギーには、局所で反応が起こるアレルギー性接触皮膚炎と全

本書には金属除去療法のポイントとして、亜鉛を多く含む食品、ニッケルや銅、スズなどを含む食品の一覧表が掲載されています。歯科医師や歯科医療関係者は金属アレルギーについても詳しくなっていきたいと思います。

今回、このような本を出させていただき、感謝しています。できるだけ多くの歯科医師や歯科関係者の方々に読んでいただければ幸いです。はなかつた